

# 地域経営エコシステムで支える過疎地域の公共交通事業

## Profile



## 地域経営エコシステムで支える過疎地域の公共交通構築事業

会社名（法人等名）、 地方公共団体名等	大田市温泉津町井田地域 集落支援員
所属部署名 氏名	大田市政策企画部 まちづくり定住課 殿山
出身地	茨城県
専門分野	プログラミング、エンジニアリング企業でのドキュメントコントロール
所属部署での業務内容	<p>地域特産品開発 第一弾として特産品開発した焼肉のたれ製造と販路拡大 井田公式インスタグラムや、地域瓦版を利用した広報 タクシー利用促進営業（井田まちづくりセンターの事業等の場をお借りした、タクシー事業紹介や勧誘） 事業コンサルタント / (株) バイタル・リード、大田市役所まちづくり定住課交通担当者との書類調整 事務的業務のなフローチャート作り 視察受け入れの日程調整 出納業務、口座振替業務</p>
現職に至るまでの経歴	<p>神奈川県横浜市で会社員として就業。 システム開発企業でのプログラミング業務や、エンジニアリング企業でインターネットのシステムを介したドキュメントコントローラー業務を担当。 エンジニアリング企業では、マネージャーとして就業し、海外のスタッフのマネジメント業務も担当する。英会話も少々可能。 東日本大震災をきっかけに、自営業の道を探し田舎移住を考える。東京のしまね館で情報を得た島根県主催の就農バスツアーに参加し、大田市温泉津町井田のメロン農家に転身。 2021年11月より井田地域集落支援員にもなり、現在半農半Xを実践中。</p>
担当として関わるきっかけ	<p>温泉津メロン農家として働いているが、メロン組合長が当時まちづくりセンター長をされていた。 ワークショップ等地域力向上に向けた取り組みへの参加を紹介していただき、数回ワークショップに参加。 その後、いきいきプロジェクトが発足し、特産品開発の動きになり、井田地域集落支援員に任命される。</p>
プロジェクトに関わった中で 印象的な事例	<p>井田地域は、他地域にもれず過疎が進む臨海集落。 高齢化率が60%に迫り、5年先もどうなっているか分からないという地域である。 地理的にも中山間に位置し、田んぼも狭く生活が不便なところ。 そのような地域性もあるのか、助け合い精神が高い。地域イベント等で草刈りを行えば、地域住民の1/3くらいの方々が参加される。 いきいきプロジェクト発足時の2年位前から、小さなビジネスという作業受託業務をしているが、ずっと同じメンバーさんにご参加いただいている。 平均年齢80歳を超えているメンバーさん、人生の大先輩でもあるが、威張らず、優しく輪を乱さず、この地域の縮図だと思っています。</p>

# 地域経営エコシステムで支える過疎地域の公共交通事業

## Profile



会社名（法人等名）、 地方公共団体名等	株式会社バイタルリード
所属部署名 氏名	新規事業推進室 森山 日向子
出身地	島根県出雲市
専門分野	まちづくりに係るコンサルタント、新規事業企画・立ち上げ・運用
所属部署での業務内容	まちづくりに係るコンサルタント 地域が抱える課題を把握し、地域の状況を分析したうえで、交通を軸にした地域経営組織の立ち上げや地域活動促進を支援。 新規事業企画・立ち上げ・運用 自社の新規事業の企画、立ち上げ及び運用サポート
現職に至るまでの経歴	関西で会社員生活から、2018年に地元島根県へUターンし現職に至る。
担当として関わるきっかけ	井田地域では、2019年に新モビリティサービス推進事業（国土交通省）で「定額乗合タクシー実証運行」を実施。併せて、島根県事業「地域と企業の協働による生活機能確保モデル構築事業」（※2019年度、2020年度の2か年採択）で地域内交通（定額乗合タクシー）を軸にした小さなビジネスづくり（地域内で外貨を稼ぐ仕組みづくり）に取り組み、県事業の担当として地域住民を対象としたワークショップの開催、地元中小企業と地域とのマッチング、広報活動、小さなビジネスの受け皿となる地域組織（仮）の立ち上げ検討等の支援を行った。 本事業では、小さなビジネスを発展させ地域運営組織による地域資源活用型ビジネスを展開するため、事業主体の井田いきいきタクシー運営協議より事業全体の運営支援等の委託を受け、続けて井田地域と関わることとなった。
プロジェクトに関わった中で印象的な事例	井田いきいきタクシー利用者ヒアリングを実施した際、利用者から「数年ぶりにいきいきタクシーで同級生と再会した。」「いきいきタクシーで出かけられるようになって、昔の友達と一緒に温泉に行ったりお茶したり頻繁に合うきっかけとなった」「いきいきタクシーがあるから天候が悪い日もみんなが集まる場に行こうと思う」など、最低限の生活を支える交通サービスではなく、社会や地域コミュニティと住民をつなぐサービスとなっていたことが最も印象的であった。 いきいきタクシー及び小さなビジネス立ち上げ当初、生活機能の確保には買い物代行等の代替手段も視野に入れていたが、地域住民の意識や行動の変化、生活満足度の向上には、“自由に移動できる環境”と”住民同士交流できる機会”が要因となっており、移動環境と交流機会の整備は持続可能な地域交通の構築に必要な取組であったと利用者の声を聞いて痛感。 本地域で地域経営エコシステムのベースができ、今後はさらにこの取組に参画する人や企業等を増やし、交通を軸にした地域経営やまちづくりを循環させ、継続させる必要がある。